

世界冬の都市市長会 広報誌

日本語特別号

2010年4月発行

World Winter Cities Association for Mayors

〈世界冬の都市市長会事務局〉

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市総務局国際部内 TEL 011-211-2032 FAX 011-218-5168

e-mail: wwcam@city.sapporo.jp URL: <http://www.city.sapporo.jp/somu/kokusai/wwcam/>

「北の都市における環境保全の特性」をテーマに世界の冬の都市が集結 ～第14回世界冬の都市市長会議開催～

第14回世界冬の都市市長会議は、エストニア・マールドゥ市の主催により、同国のタリン市において、2010年1月20日から22日まで開催されました。主要テーマ「北の都市における環境保全の特性」は、持続可能な開発への取組みを重点に議論され、会議最終日にはマールドゥ宣言が満場一致で採択されました。

国際社会が地球規模の経済危機を脱する方法を強く模索し、環境破壊やそれに伴う大惨事から人類を守るという地球上共通の課題解決のために、国や人々が手を携えている状況の中で、今回の会議が開催されました。

会議では、会員都市間の友好関係をさらに強め、持続可能な社会の構築につき、市長同士の理解をも深めたことなど、期待に沿う結果を得ることができました。これにより参加者は、それぞれの地域社会で活用できる情報を共有し入手するという素晴らしい可能性が与えられました。

会議の様様については写真や動画も含めてwww.maardu.euで閲覧することができます。



第14回世界冬の都市市長会議（於：エストニア・マールドゥ市）に参加した会員都市代表者等

マールドゥ会議を終えて ～開催市市長からのメッセージ～

第14回世界冬の都市市長会議は、期待以上の結果を生み出し、相互理解や実り多い議論は参加都市の発展と幸福に寄与し、成功裏に閉幕しました。これは本市にとって大変栄誉あることと同時に、会議を主催するという大きな責任を実感しました。本会議に参加された各都市の温かなお力添えに対し、心より感謝いたします。

会議では世界冬の都市市長会の今後のさらなる活動に向けて、予算や事業計画の策定と役員改選が行われ、引き続き上田文雄氏が会長を務めることになりました。

情報通信技術を活用して、いかに多文化社会における環境を保護していくのかといった専門家による未来構想についてのお話がありました。また、私たちの都市の将来においては、多文化社会の発展という課題に目を向ける必要性があり、広範囲にわたる情報アクセスが、持続可能な開発への取組みを促進するという共通の理解が得られました。

世界冬の都市市長会の会員都市であることにより、国や文化の違いを超えて、科学技術の革新に触れることができ、文化体験の交流、互いのより強い友好関係を維持していくことができます。

最後に、マールドゥ宣言が承認され、採択されました。次期ウランバートル市長会議まで2年ですが、マールドゥ会議同様、成功を収めることを願っております。



市長会議が開催されたエストニアの首都タリン

マールドゥ市長

ギョルギ・ブストロフ

マールドゥ会議実施報告

【協議概要】

第14回世界冬の都市市長会議は「北の都市における環境保全の特性」を全体テーマに3日間の日程で開催され、会員都市市長や代表者による意見交換や参加都市からの事例紹介などが行われました。

【日程及び会場】 2010年1月20日（水）～2010年1月22日（金）

スイソテル・タリン（エストニア・タリン市）

【参加都市・団体】 11カ国18都市、1団体

○会員都市（14都市）

長春、ハルビン、ジャムス、鶏西、瀋陽（以上、中国）、マールドゥ（エストニア）、ヌーク（グリーンランド）、札幌（日本）、太白、華川（以上、韓国）、カウナス（リトアニア）、ウランバートル（モンゴル）、トロムソ（ノルウェー）、アンカレッジ（アメリカ）

○オブザーバー都市（4都市） シンディ（エストニア）、エーカブピル（ラトビア）、ロングイェールピエン（ノルウェー）、イリチェフスク（ウクライナ）

○オブザーバー団体（1団体） ノルウェー国立住宅銀行（ノルウェー）



第14回市長会議に臨む、会長の上田文雄札幌市長（右）と開催市のギオルギ・ブストロフ・マールドゥ市長（左）

【市長会議セッション】

1. 環境保全活動

環境分野の専門家による発表が行われた後、会員都市から事例発表がありました。

札幌市は上田市長が発表し、同市の地球温暖化対策の取り組みとして、雪冷熱、太陽光発電、木質バイオマス等の再生可能エネルギーの積極的な導入事例が紹介されました。その他、ごみ減量とリサイクルの推進の取組、「環境首都・札幌宣言」や「こども環境サミット」の開催、「国際短編映画祭」における環境に関する優秀な作品には「環境賞」を授与していることなど、世界に向けて環境への取組みを発信している旨の報告がありました。



環境保全に関する札幌市の取組事例発表の様子

2. 多文化と電子情報化社会

多文化社会に関連して、エストニア政府文化遺産部のアンヌ・リー・レイマー氏から、「文化の安定や誰もが政治に参加できる社会は国の発展に重要であり、持続可能な開発など様々なプロジェクトを進める上での根源である。」旨の報告がありました。

また、電子情報化社会について、エストニア政府経済通信省国家情報システム局のマルグス・ピューア氏から「電子情報化を進めることは資源の無駄を防ぐことにつながる。」として、エストニアの電子投票などITソリューションを利用した公共部門の効率化について報告があったほか、ボランティアによるゴミ回収キャンペーン「Let's do it」の紹介がありました。

さらに、トロムソ市からは、市役所のホームページ上で、水道管など自宅敷地の地中に埋設されたものを確認できるほか、ゴミの収集日も住所の入力で確認できる仕組みにしているなどの紹介がありました。



市長会議セッションでファシリテーターを務めるユーロ大学学長のユリ・マーティン氏

【マールドゥ宣言】

会議の最後に、マールドゥ市から提案されたマールドゥ宣言が満場一致で採択され、マールドゥ市長及び札幌市長（世界冬の都市市長会会長）が宣言文に署名しました。

マールドゥ宣言では「冬の都市こそが国際社会の先頭に立って地球温暖化問題に取り組むべき立場である」こと、「我々自治体政府としても、身近な立場としてこの喫緊の課題に取り組まなければならない」ことを再確認し、「『持続可能性』をキーワードに冬の特性を生かしたまちづくりに積極的に取り組む必要性」を共有しました。

【その他】

1. 2014年市長会議開催市は韓国・華川郡に決定しました。
2. 「環境保全小委員会」を中国・長春市に新たに設置しました。
3. 2012年第15回市長会議開催市はモンゴル・ウランバートル市に決定したことを報告しました。会議テーマは今後の実務者会議で決定される予定です。



マールドゥ市主催夕食会の様子



ウランバートル市代表者による挨拶

世界冬の都市市長会とは

「世界冬の都市市長会」は、“冬は資源であり、財産である”というスローガンのもと、世界の冬の都市が集まり、冬の技術や経験を学びあうためのネットワークです。以前は、北方都市市長会議と呼ばれ、1981年に札幌市が提唱し、翌年に第1回の市長会議を開催したのが始まりです。2004年に名称を「世界冬の都市市長会」に変更しました。

これまでの会議では、都市計画、冬の都市交通、除排雪、リサイクル、冬の観光資源開発などについて市長同士がそれぞれの都市の知恵と経験を共有し、まちづくりのアイデアや厳しい気象条件を克服する手立てを学んできました。近年の会議では特に、地球温暖化問題などの環境問題に力を入れて取り組んでいます。



札幌市の取組事例を発表する上田文雄市長

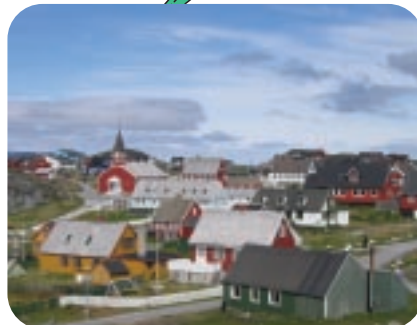
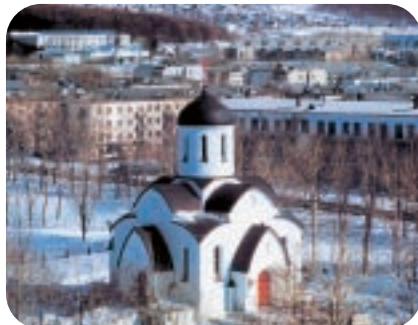
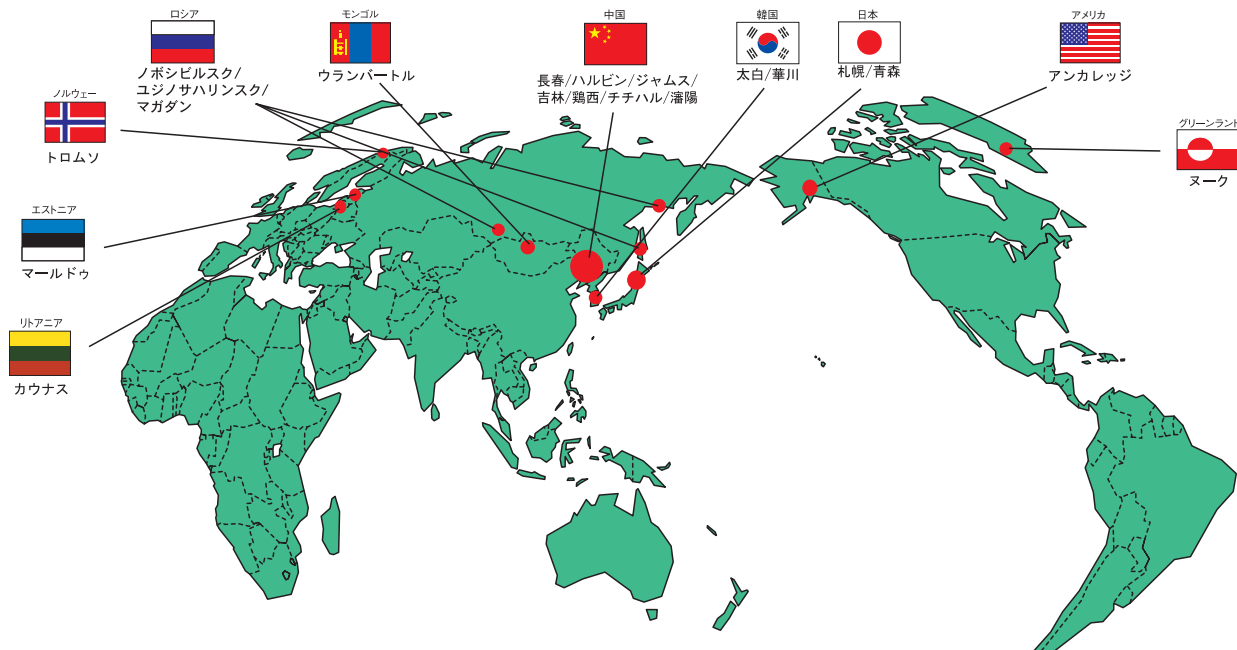
冬の都市とは

積雪または寒冷という気象条件のもとでまちづくりを行う都市。

積雪の基準・・・1年間のうちで積雪量の最大値が概ね20cm（8インチ）以上となること。

寒冷の基準・・・1年間のうちでもっとも寒い月の平均気温が概ね摂氏0度（華氏32度）以下となること。

会員都市 10カ国20都市（2010年4月現在）



主な活動内容

市長会議

世界冬の都市市長会の主要事業であり、2年に1度開催されます。

これまで14回の会議が開催されており、地球環境問題、都市計画、冬の都市交通、除排雪などについて、市長同士が先駆都市の知恵と経験を共有し、「まちづくり」へのヒントや厳しい気象条件を克服する手立てを学んできました。

市長会議は、市長自らが各都市の取組事例を紹介し、市長同士が膝を交えて率直な意見交換を行う格好の機会となっています。



市長会議の様子（第12回長春会議）

小委員会

冬の都市の状況や先進事例を調査・研究する機関です。

これまでに、「リサイクル小委員会」、「観光促進小委員会」、「雪対策小委員会」、「自然災害対策小委員会」、「持続可能な冬の都市づくり小委員会」、「冬の都市環境問題小委員会」等が設置され、それぞれのテーマに基づいて調査・研究成果をまとめています。

現在は「自治体の諸活動における環境保全活動調査小委員会（事務局：アンカレッジ市）」及び「環境保全小委員会（事務局：長春市）」が活動しており、「地球規模の環境問題」を切り口に、環境教育や自動車問題といった身近な問題から、大気汚染や水質汚濁などの公害対策技術、省エネルギー技術の先進事例の収集まで幅広い活動を行っています。また、最新の活動状況を世界冬の都市市長会のウェブページにて発信しております。



小委員会報告書

冬の見本市、冬の都市フォーラム

冬の見本市・冬の都市フォーラムは、市長会議と併せて行われる、併催事業です。

「冬の見本市」は、開催市および会員都市の企業や団体が中心となって、冬や雪に関連する機材や製品の展示をはじめ、様々な技術の紹介を行うものです。

「冬の都市フォーラム」は様々な分野の専門家や学術研究者、あるいは市民が、冬のライフスタイルやまちづくりなどについて発表を行う学術交流の場です。1988年の第3回会議から併催されるようになり、世界冬の都市市長会議は、大きなイベントに発展しました。



冬の見本市（第11回アンカレッジ会議）

実務者会議

会員都市の行政実務者が集まり、次期市長会議の開催計画やテーマ、市長会の運営などについて協議する会議です。毎年行われています。

会員になるには

入会手続き： 会員になるには、入会しようとする都市の市長が会長に入会を申請し、役員会で入会が決定されます。

会費： 会員都市は、都市人口と国民1人あたりの国内総生産額(GDP)を基準として算出される年会費を払わなければなりません。ただし、入会初年度の会費納入金額は、年会費の半額となります。

会員になると： 会員になると、市長会総会及び市長会議に出席して発言し、表決に加わることができます。また、市長会議の開催市に立候補することができます。さらに、会員間に形成されているネットワークを活用して様々な分野で個別に交流をすることができます。

申込み先： 世界冬の都市市長会事務局
TEL 011-211-2032

最新の会議内容やこれまでの成果についての詳しい情報を、世界冬の都市市長会のホームページに掲載していますので、是非ご覧下さい。(http://www.city.sapporo.jp/somu/kokusai/wwwcam/)

世界冬の都市市長会は共に快適な冬のまちづくりについて考える会員都市を募集しています。加入の詳しい要件などについては、世界冬の都市市長会事務局までお問い合わせください。

冬の都市環境問題小委員会（事務局：札幌市）

【議事概要】

2010年市長会議の開催に併せて最終報告を行いました。その中で、小委員会の事務局を担う札幌市の主導により昨年末に実施した地球環境保全をPRする、会員都市共通キャンペーンの結果報告が行われ、参加都市の取組状況等を紹介しました。そのほか、これまでの4年間の活動実績についての総括がありました。

【小委員会活動の成果】（最終報告書抜粋）

第12回市長会議で採択された長春宣言を受け、小委員会では、2006年から2009年の4年間の活動において、冬の都市での環境問題の取組事例を調査し、その結果を先進的な取組事例として共有することや、会員都市が共通で進めることができる取組を行うことにより、長春宣言の趣旨を継続的に本会の活動に反映させていくことを目標としてきました。（中略）

小委員会は、これまでの活動において得た先進的な取組事例、調査分析結果、共通キャンペーンの成果から、引き続き冬の都市が環境に配慮した取組に鋭意努力していくことの必要性を確認しました。そこで、今後、会員都市が共通して取り組むべき以下の行動の指針を小委員会の総意により決定し、第14回市長会議において提言を行いました。



4年間にわたる小委員会活動の最終報告を行う札幌市環境局の湯浅氏



小委員会では、地球環境問題への取組として、会員都市共通キャンペーンを2度実施

冬の都市における 環境行動指針

- 自然の恵である水とみどりを守り、育てます。
- 資源を無駄なく使い、ごみを減らします。
- 化石燃料からの脱却を図り、再生可能エネルギーの利用を進めます。
- 省エネルギー機器の利用を進めます。
- 自家用車の利用を減らし、環境にやさしい街づくりを進めます。
- 環境教育により市民の環境意識を高め、市民による取組を促進します。

自治体の諸活動における環境保全活動調査小委員会（事務局：アンカレッジ市）

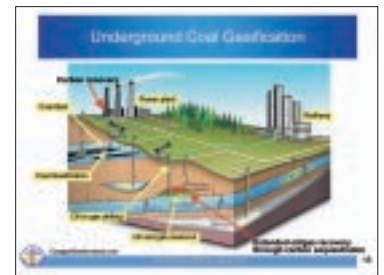
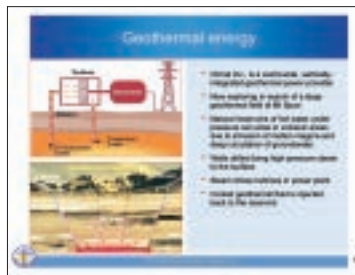
アンカレッジ市から、同市の気候変動に対する取組みと現状について報告がありました。

エネルギー効率と省エネルギーの向上は、気候変動問題に取り組むための重点対策です。さらにアンカレッジ市は、近隣の風力、水力、地熱、潮力発電などの再生可能エネルギーの開発という主要な取組みにも積極的に関与しています。ファイヤーアイランド風力発電プロジェクトは2年後に開始される予定で、化石燃料への依存から脱却を図るものです。

気候変動は給水にも影響することから、飲料水の大部分を供給しているエクルートナ湖の水源、エクルートナ氷河について、アンカレッジ市は入念な観測を行っています。

先頃には、グリーンビルディングやデザインを推奨する「持続可能な建築物に関する条例」を新たに可決しました。大規模改築工事を含めた市有建築物の新規建設は、LEED基準を満たすことが義務付けられています。加えて、民間による建築物についてもLEED基準に沿うことを奨励し、その際に市は高額な許可費用の免除というインセンティブを与えています。ちなみにLEEDとは、「エネルギーと環境に配慮したデザインにおけるリーダーシップ（Leadership in Energy and Environmental Design）」を意味します。

特にアンカレッジ市は、率先して非効率の高圧ナトリウム街路灯を、エネルギー効率の高いLED灯に変換しました。この新しい白い光によって、大幅に電力使用量が削減されるほか、LED照明は寒冷気候に適しているため、光害防止にも役立っております。これにより、都市部の過剰な照明の光によって隠れていた月も姿を現し、長い冬には見る者の目を楽しませてくれます。アンカレッジ市は、他の会員都市に対して、同市と連絡をとって同様のLED照明システムを導入することを勧めております。



アンカレッジ市の先進の環境対策が紹介されました。

次期市長会議開催地紹介 (ウランバートル)

モンゴルはアジアの中央部に位置し、北はロシア、南は中国と国境を接しています。首都であるウランバートル市は、国の政治、経済、文化の中心となっております。

ウランバートル市はトーラ川、オリヤスタイ川、セルベ川の沿岸、ボグド、ソングノ、チンゲルテイ、バヤンズルフの美しい四山に囲まれた盆地にあり、標高1,350メートルに位置し、120万人が居住しています。



街の中心にあるスフバートル広場の周りには、数々の政府機関や文化施設が建ち並んでいます

ウランバートル市は、現代的なビルや建造物が林立しているにもかかわらず、今や博物館や観光地に姿を変えながら、歴史的、文化的価値を保持している独特な雰囲気の街です。

散在する永久凍土地帯の上に位置し、世界で最も寒い首都です。概して冬は長く乾燥し、夏は短く湿気が多いのが特徴です。一般に冬の都市は、エネルギー供給と大気汚染といった2つの大きな課題を抱えています。特にウランバートル市は、エネルギーコストの変動やその供給に脆弱です。さらに自動車の排ガスや、伝統的な木造で、暖房を石炭燃料に頼るテント張りの家屋—ゲルが連なる郊外の“ゲル地区”からのガス排出の問題も抱えて

います。また、急速な都市化に伴って生じるエネルギー利用や開発、環境汚染、都市交通、都市衛生、そして公共サービスの提供などの問題にも現在直面しています。モンゴルの総人口の約半分以上が、ウランバートル市に居住しています。

今日、首都ウランバートル市は国内総生産の40%を産出し、その内訳は工業生産が53.4%、建設が87.1%、貿易が56.3%、エネルギーが80%、運輸通信が98%となっております。

ウランバートル市は国際関係において開放政策を推進しており、都市開発においても海外との連携を拡大しています。1990年より国際関係の新時代が始まっており、市長室は対外関係における新しい政策や理念を着実に押し進めております。

現在、ウランバートル市は11都市と姉妹都市、24都市と友好都市、18都市と親善都市提携をしています。1998年より世界冬の都市市長会の会員都市となっています。現下、ウランバートル市は、2010年7月8日から10日まで開催される同市長会の実務者会議と、2012年に開催される第15回世界冬の都市市長会議について企画、検討を重ねています。当市としましては、次期市長会議のテーマを「冬の都市における省エネルギーと消費効率」としたいと考えております。



ウランバートル市のシンボル「KHANGARDI」

